

研究論文

カナダ・アルバータ大学教育系大学院学位プログラムの諸特徴

平田 淳*

Some Characteristics of the Graduate Programs of the Faculty of Education of the University of Alberta, Canada

Jun HIRATA*

【要約】アルバータ大学大学院における学位プログラムとしては、大別して「学位論文ベース修士課程」、「コースベース修士課程」及び博士課程があり、2020年時点で順に2,085名、3,124名、2,766名の学生が学んでいる。教育系大学院ではそれぞれ、55名、626名、255名が在籍している。教育系大学院は教育政策学専攻、教育心理学専攻、初等教育専攻、中等教育専攻、図書館情報学専攻の5専攻から構成されており、各専攻は更に複数の専門領域に細分化されている。そのうちM.Ed.とEd.D.双方の学位プログラムを有するのは、教育政策学専攻の「成人・コミュニティ・高等教育」領域と「教育リーダーシップ学」領域、及び初等教育専攻である。

【キーワード】アルバータ大学, M.Ed., Ed.D.

はじめに

本稿は、科研費研究「カナダの大学院における教育専門職向け学位プログラムの教育効果に関する研究」という5か年プロジェクトの一部である。別の拙稿(平田, 2021a)で明らかにしたように、カナダ大学協会(Universities Canada)ウェブサイトに掲載されている85大学のうち、M.Ed.プログラムを設置しているのが45大学、Ed.D.プログラムを設置しているのが11大学である。筆者はこれまで、オンタリオ州に焦点を当て、ブロック大学M.Ed.プログラム(平田, 2019a・b)、トロント大学大学院オンタリオ教育研究所(Ontario Institute for Studies in Education of the University of Toronto: OISE/UT) M.Ed.及びEd.D.プログラム(平田, 2020a・b)、ウェスタン大学(Western University) M.P.Ed.及びEd.D.プログラム(平田, 2021b・c・2022)について検討してきた。その後どの大学に研究を拡張していくか思案したところ、残された研究期間と筆者の言語能力の制約から、M.Ed.とEd.D.双方のプログラムを設置している大学であること、英語系大学に限定すること、という2つの条件を満たす大学を対象とすることが現実的選択肢であると考えた。既に検討した大学を除いてこの条件を満たす大学としては、アルバータ州のアルバータ大学(University of Alberta)及びカルガリー大学(University of Calgary)、ブリティッシュ・コロンビア(以下「BC」)州のブリティッシュ・コロンビア大学(University of British Columbia: UBC)の3大学が該当する。そこで本稿では、アルバータ大学の教育系大学院の諸専門領域の概要について明らかにすることとする。

1. アルバータ大学の概要

アルバータ大学は、アルバータ州初代州首相であるアレキサンダー・キャメロン・ラザーフォード

*佐賀大学大学院学校教育学研究科

(Alexander Cameron Rutherford) の努力により、1906 年の最初の州議会で制定された「大学法 (University Act) ¹」により設立されることとなり、1908 年 9 月に開校した。初代学長は、ラザーフォードと共に開校に尽力したヘンリー・マーシャル・トーリー (Henry Marshall Tory) が務めた²。開校当初は 5 名の教員と 45 名の学生で構成されており、学生にはまず 1・2 年次は教養教育、その後 B.A. (Bachelor of Arts) 及び B.Sc. (Bachelor of Science) in Arts に繋がるコースと、1 年目から応用科学 (applied science) を学び、B.Sc. in Applied Science に繋がるコースが提供された。その後学生数は 1913 年には 434 名、1953 年には 3,691 名と増加し、常勤の教員数も 1913 年には 27 名に増加した³。1912 年には開校年に入学した学生が第一期卒業生となり、1914 年には法律学や医学も教えるようになった⁴。

現在のアルバータ大学は、エドモントンに 4 キャンパス、エドモントンから南に約 100 km ほどのカムローズ (Camrose) に 1 キャンパスの計 5 キャンパスを有する総合大学であり⁵、18 の学部から構成され、そのうち 13 学部は次の 3 つのカレッジに属している⁶。健康科学カレッジ (College of Health Science) は運動学・スポーツ・レクリエーション学部 (Faculty of Kinesiology, Sport, and Recreation)、医歯学部 (Faculty of Medicine and Dentistry)、看護学部 (Faculty of Nursing)、薬学部 (Faculty of Pharmacy and Pharmaceutical Science)、保健学部 (School of Public Health)、リハビリテーション医学部 (Faculty of Rehabilitation Medicine) の 6 学部、770 名の教員と学部生・大学院生含めて 7,200 名の学生から構成される⁷。自然応用科学カレッジ (College of Natural and Applied Science) は農学生命環境科学部 (Faculty of Agricultural, Life & Environmental Sciences)、工学部 (Faculty of Engineering)、理学部 (Faculty of Science) の 3 学部から構成され、教員数 625 名、学生数 17,000 名である⁸。社会科学人文学カレッジ (College of Social Sciences + Humanities) はアルバータ・スクールオブビジネス (Alberta School of Business)、教養学部 (Faculty of Arts)、教育学部 (Faculty of Education)、法学部 (Faculty of Law) の 4 学部から成り、教員 510 名、15,000 名の学生を擁する⁹。その他、オーガスタナ・キャンパス (Augustana Campus)、キャンパス・サンジャン (Campus Saint-Jean)、地域公開学部 (Faculty of Extension)、大学院研究学部 (Faculty of Graduate Studies and Research: FGSR)、先住民学部 (Faculty of Native Studies) も「学部 (Faculties)」として位置付けられている¹⁰。本稿執筆時点 (2022 年 7 月) の大学ウェブサイト¹¹においては、大学全体として約 41,000 名の学生が学んでいるとされている。

2. 大学院の概要—統計データから—

(1) 大学院全体の概要

アルバータ大学の大学院を統括する部署として、「大学院研究学部 (FGSR)」がある。カナダの大学には「大学院学部 (Faculty of Graduate Studies あるいは School of Graduate Studies)」という「学部」がある場合が多いが、その機能は大学院に関する事務的な面に向けられており、実際の研究指導等は通常の学

¹ 大学法は、アルバータ州政府の法令を含む公文書閲覧サイトである「Open Government Program」(<https://www.alberta.ca/open-government-program.aspx>) に掲載がないため、法令番号は不明。

² <https://www.thecanadianencyclopedia.ca/en/article/university-of-alberta> (2022 年 7 月 22 日採取)。

³ <https://sites.ualberta.ca/ALUMNI/history/founding/53winhist.htm> (2022 年 7 月 22 日採取)。

⁴ <https://www.thecanadianencyclopedia.ca/en/article/university-of-alberta> (2022 年 7 月 22 日採取)。

⁵ <https://www.ualberta.ca/about/index.html> (2022 年 7 月 24 日採取)。

⁶ <https://www.ualberta.ca/faculties/index.html> (2022 年 7 月 24 日採取)。

⁷ <https://www.ualberta.ca/health-sciences/index.html> (2022 年 7 月 24 日採取)。

⁸ <https://www.ualberta.ca/natural-applied-sciences/index.html> (2022 年 7 月 24 日採取)。

⁹ <https://www.ualberta.ca/social-sciences-humanities/index.html> (2022 年 7 月 24 日採取)。

¹⁰ <https://www.ualberta.ca/faculties/index.html> (2022 年 7 月 24 日採取)。

¹¹ <https://www.ualberta.ca/index.html> (2022 年 7 月 24 日採取)。

部教員が行い、大学院生の所属も通常の各研究科プログラムになる。FGSR もその「大学院学部」に相当する。その FGSR は、毎年学生関連の統計情報を『大学院イヤーブック (*Graduate Studies Year Book*)』という形で刊行・公表している。以下では、ここで公表されている統計データを基にして、アルバータ大学大学院の全体像を概観していくことにする。

表 1 は、アルバータ大学大学院全体としての学生数の推移である。2020-2021 年時点で 389 の研究領域 (research areas) に 8,204 名の学生が在籍しており、全学生に占める大学院生の割合は 19.82% である。学位別の学生数を見てみると、Ph.D. が 2,766 名、学位論文ベースの修士課程が 2,085 名、コースベースの修士課程が 3,124 名、証明書プログラムの学生が 170 名、その他が 59 名となっている。「学位論文ベースの修士課程」(以下、「学位論文ベース修士」とは、修士号取得に際してコースワークと学位論文の執筆が求められる従来通りのプログラムであり、「コースベースの修士課程」(以下、「コースベース修士」とはコースワークのみが要件とされているプログラムである。本プロジェクトにおいてこれまでにを行った調査、例えば 2018 年に行ったブロック大学 M.Ed. プログラム調査では、近年コースワークのみで学位取得できる M.Ed. プログラムが増えてきていることが指摘され (平田, 2019b), それは翌 2019 年に実施した OISE/UT 調査でも確認された (平田, 2020b) が、それは M.Ed. に限らず修士課程全体に亘る傾向であるということだろう。博士号に関しては、「イヤーブック」においては「Ph.D.」という記載と「博士 (Doctoral)」という表現が併用されているが、Ed.D. やその他の博士学位については記載がない。特に注意書きもないため定かでは無いが、数字を見る限り特に Ph.D. とその他の博士号を区別して記載しているわけではない (例えば図表中では「Ph.D.」とある場合でも、その説明文では単に「博士 (doctoral)」という表現を使っている箇所が多い) ため、本稿でも特にその旨言及する場合の他は区別しないこととする。「その他」とは、正規の学生以外の学生 (qualifying, special and visiting students¹²) を指す。また、表 1 に記載はないが、学生の年齢構成としては、21 歳未満が 0.02%, 21 歳から 25 歳が 29.67%, 26 歳から 30 歳が 33.59%, 31 歳から 35 歳が 17.41%, 36 歳から 40 歳が 9.47%, 41 歳から 45 歳が 4.81%, 46 歳以上が 5.02% となっている。また、大学院生の 36.9% は留学生であり、20.7% が自らを保護者と認識し、3.1% が自らを先住民と認識している (FGSR, 2021)。

表 1 大学院学位別在籍者数

	2016	2017	2018	2019	2020
大学院在籍者数 (人)	7,458	7,668	7,971	8,225	8,204
修士 (コースベース)	2,498	2,582	2,853	2,997	3,124
修士 (学位論文ベース)	2,051	2,133	2,178	2,204	2,085
Ph.D.	2,732	2,763	2,730	2,798	2,766
その他	108	67	101	111	59
証明書 (Certificate)	69	123	109	115	170

出典：(FGSR, 2021, p. 9) 掲載の図を基に、筆者作成。

¹² 認定学生 (qualifying students) とは、入学要件は満たしているが、特定の専門領域に入学するための経歴に不足がある受験者に与えられる学生であり、一定期間中に正規の学生より多くのコースワークを行い単位を修得することにより正規学生の地位を得ることができる。客員学生 (visiting students) とは、アルバータ大学と単位互換協定を結んでいない他大学の大学院生が、アルバータ大学大学院のコースワークや調査研究を自分が就学する大学院の授業として修得したい場合に、申請の上認められた学生を意味する。

表 2 はプログラム別学位取得者数の推移である。学位論文ベース修士と Ph.D.の取得者数はほぼ横ばい傾向にあるが、コースベース修士取得者数のみ過去 5 年間で約 400 名近く増加しており、2020 年には学位論文ベース修士取得者の 2 倍以上になっている。ブロック大学調査 (2019b) でも指摘されたことだが、コースベース修士プログラムのニーズが特に近年高まってきているということであろう。

表 2 学位取得者数

	2016	2017	2018	2019	2020
学位取得者数 (人)	2,029	2,091	2,163	2,308	2,475
修士 (コースベース)	905	984	1,050	1,077	1,323
修士 (学位論文ベース)	594	621	600	669	660
Ph.D.	477	439	452	502	424
その他	53	47	61	60	68

出典：(FGSR, 2021, p. 33) 掲載の図を基に、筆者作成。

表 3 は大学院修了者と中退者、継続中の学生数である。ここ 5 年間の新規入学者数は、学位論文ベース修士と博士ではほぼ横ばい、コースベース修士については増加傾向にあったが、いずれも 2020 年は減少に転じている。FGSR としては、この原因を COVID-19 の影響によるものと結論付けている (FGSR, 2021)。

表 3 大学院修了・中退・継続学生数の推移

	2016-2017	2017-2018	2018-2019	2019-2020	2020-2021
修士 (コースベース) (人)					
当該年度に学位課程を始めた学生数	1,197	1,237	1,396	1,356	1,144
うち現時点までで修了した学生数	1,050 (92.27%)	903 (91.86%)	623 (N/A)	47 (N/A)	
うち現時点で就学中の学生数	59	254	721	1,271	1,140
うち現時点までに中退した学生数	88 (7.35%)	80 (6.47)	52 (N/A)	38 (N/A)	4 (N/A)
修士 (学位論文ベース) (人)					
当該年度に学位課程を始めた学生数	747	758	748	755	725
うち現時点までで修了した学生数	629 (91.82%)	512 (90.14%)	187 (N/A)	6 (N/A)	(N/A)
うち現時点で就学中の学生数	62	190	524	730	718
うち現時点までに中退した学生数	56 (7.5%)	56 (7.39%)	37 (N/A)	19 (N/A)	7 (N/A)
博士 (人)					
当該年度に学位課程を始めた学生数	532	549	554	547	457
うち現時点までで修了した学生数	64 (N/A)	20 (N/A)	7 (N/A)	3 (N/A)	
うち現時点で就学中の学生数	419	486	517	523	2 (N/A)
うち現時点までに中退した学生数	49 (N/A)	43 (N/A)	30 (N/A)	21 (N/A)	2 (N/A)

出典：(FGSR, 2021, pp. 40-42) 掲載の表を基に、筆者作成。

表 4 は 2000 年以降 5 年ごとの各プログラムの修了率と中退率の推移である。この 20 年間で、修了率

はコースベース修士で約4.5%、博士で約7%向上している。中退率は、コースベース修士で2010年代初頭から中盤にかけて3%以上、学位論文ベース修士で2000年代中盤から2010年代初頭にかけて5%以上、博士ではこの20年間で約12%改善している。特に博士の中退率は24.09%から12.10%と約半分になっている。

表4 修了率・中退率の推移

	2000-2001	2005-2006	2010-2011	2015-2016
修了率				
修士（コースベース）	89.0	89.40	90.01	93.59
修士（学位論文ベース）	88.19	84.97	90.11	90.69
博士	75.91	79.96	84.56	83.20
中退率				
修士（コースベース）	11.0	10.60	9.99	6.30
修士（学位論文ベース）	11.81	15.03	9.87	9.02
博士	24.09	20.04	15.22	12.10

出典：(FGSR, 2021, pp. 40-42) 掲載の表を基に、筆者作成。

ここからは、カナダ国内学生と留学生の比較の視点も交えながら、統計情報を見ていくこととする。というのも、上述の通りアルバータ大学大学院では、学生の36.9%は留学生であり、全体としての平均値を留学生の存在が引き上げていたり、逆に引き下げていたりする可能性があるからである。

表5は入学申込者（applications）・入学許可者（applicants admitted, 入学許可を受けた者）・入学登録者（applicants registered, 入学許可を受けて実際に入学した者）数の推移を見ていく。まず国内学生を見ていくと、入学申込者数については4,000名台で推移し、ほぼ横ばいである。入学許可者数は2,000名を超える程度で推移しており、ほぼ横ばいである。合格率も50%前後でほぼ横ばいであったが、2020-2021年に7%ほど低下している。入学登録者数は2016-2017年の1,857名から年々僅かながら減少しており、入学率も40%周辺を推移していたのが、2020-2021年には前年から6%下がり35%となっている。これも、COVID-19が影響した可能性はある。留学生に関しては、まず入学申込者数が2016-2017年の5,257名から年々増加し、2020-2021年には10,981名と5年で倍増している。入学申込者数だけ見ると、2016-2017年は留学生が国内学生よりも100名ほど多かったのが、2020-2021年には留学生が国内学生の2倍以上にまで増えている。入学許可数・入学登録者数については、それぞれ増加傾向にあったが、2020-2021年には減少している。注目すべきは国内学生に比べて低い留学生の合格率・入学率である。2016-2017年の国内学生の合格率・入学率がそれぞれ52%・42%であったのに対し、留学生はそれぞれ26%・16%とかなり低い。2020-2021年になると、国内学生の合格率・入学率がそれぞれ44%・35%なのに対し、留学生は15%・9%と3分の1・4分の1となっている。結果として、入学申込者数は留学生が国内学生の倍以上あるのに、入学した学生全体における留学生の割合は36.9%（3,028名）と、入学申込者数から見ると低い、ということになっている。ちなみに、2020年の全大学院生数は8,204名であるが、そのうちカナダ国籍を有する学生が4,494名で全体の54.78%、カナダ永住者（permanent residents）が682名で8.31%となっている。留学生の出身国を見てみると、最も多いのは中国（1,064名、全体の12.97%）であり、2位のイラン（373名、4.55%）、3位のインド（342名、4.17%）と比較しても、突出していることが分かる（FGSR, 2021）。

表 5 入学申込者・入学許可者・入学登録者数の推移

	2016-2017	2017-2018	2018-2019	2019-2020	2020-2021
国内学生					
入学申込者数	4,399	4,411	4,383	4,131	4,609
入学許可者数 (合格率) *	2,279 (52%)	2,168 (49%)	2,154 (49%)	2,092 (51%)	2,038 (44%)
入学登録者数 (入学率) **	1,857 (42%)	1,792 (40%)	1,758 (40%)	1,687 (41%)	1,604 (35%)
留学生					
入学申込者数	5,257	9,556	10,144	10,409	10,981
入学許可者数 (合格率)	1,342 (26%)	1,597 (17%)	1,891 (19%)	1,884 (18%)	1,621 (15%)
入学登録者数 (入学率)	845 (16%)	1,011 (11%)	1,199 (12%)	1,231 (12%)	959 (9%)

*入学許可者数を入学申込者数で割り、小数点第三位を四捨五入した割合。

**入学登録者数を入学申込者数で割り、小数点第三位を四捨五入した割合。

出典：(FGSR, 2021, pp. 44-45) 掲載の表を基に、筆者作成。

表 6 は修了までにかかった年数である。一般的に言われており、またそれは筆者の留学経験とも合致するものであるが、留学生の方が国内学生よりも修了までにかかる期間は短い傾向にある。それは、国内学生は様々な理由でアルバイトをしたり、TA (Teaching Assistants) あるいは RA (Research Assistants) をすることが多いが、留学生は学生ビザの関係で就労に関する制約が多く、それは反面研究に集中できる時間が国内学生に比して多くなることを意味する。外国語での学位取得はそれ自体がハンディキャップではあるが、研究に集中できる時間が長いということの方が影響が大きいということであろう。実際に表 6 を見てみると、いずれの学位プログラムにおいても留学生の方が短期間で修了していることが分かる。

表 6 修了年数

	2016	2017	2018	2019	2020
修士 (コースベース)					
全体	2.34	2.38	2.21	2.28	2.15
国内生	2.53	2.55	2.40	2.46	2.46
留学生	1.65	1.69	1.53	1.67	1.62
修士 (学位論文ベース)					
全体	2.74	2.74	2.68	2.62	2.68
国内生	2.88	2.85	2.74	2.75	2.77
留学生	2.49	2.49	2.60	2.43	2.54
Ph.D.					
全体	5.61	5.63	5.62	5.64	5.70
国内生	5.87	5.99	5.93	6.06	6.23
留学生	5.02	4.98	5.13	5.08	5.03

出典：(FGSR, 2021, p. 35) 掲載の表を基に、筆者作成。

このように、入学申込者数は国内学生の2倍以上、実際の入学者数は全体の約40%を占め、国内学生よりも短期間で修了するということになると、大学院における留学生の位置づけはますます重要になるであろう。この点は本稿の検討対象ではないためこれ以上触れることはしない¹³が、学費については気になるところではある。そこでアルバータ大学大学院の例を見てみると、例えば学位論文コース修士の場合、国内学生に関しては授業料 (instructional fee) が年間で、2020年秋学期以前の入学者は4,486.20ドルであり、これは2020年秋学期以降の入学者も同額である。他方で留学生については、2020年秋学期以前の入学者の年間授業料は8,546.20ドル、2020年入学者の2022年夏学期までの年間授業料が8,700ドル、2022年秋学期入学者の2023年夏学期までの授業料が8,874.00ドルと年々増額されており、現在では留学生の授業料が国内学生より4,000ドル以上高額であり、2倍弱となっている¹⁴。また、就学には授業料に加えて非授業料 (non-instructional fee) もかかることになっているが、こちらは就学方式 (オンキャンパスかオンラインか) によって異なる。例えばオンキャンパスの学位論文ベース修士の学生の場合、2022年秋学期が1,244.03ドル、2023年冬学期が718.65ドル、2023年春学期が408.83ドル、2023年夏学期が228.83ドルとなっており、合計すると年間で2,600.34ドルとなる。非授業料は、国内学生と留学生同額である¹⁵。授業料と非授業料を合計すると、年間でかかる経費は国内学生が451,220.34ドルであるのに対し、直近の留学生が890,022.34ドルとなる。非授業料は同額であるため、授業料の差額438,802ドルがそのまま合計の差額となる。近年のカナダの大学においては、国内学生に比して留学生の授業料が高額化する傾向にあることは溝上 (2013) が指摘するところだが、それはアルバータ大学大学院にも該当するということであろう。ちなみに2018-2019年 OISE/UT の M.A.を見てみると、授業料プラスその他の経費を含めて年間経費は国内学生は8,489.52ドル、留学生が24,853.52ドルとなっており、留学生の方が1,636,400ドルも高く、ほぼ3倍となっている (平田, 2020a)。この違いを大きいと感じるか小さいと感じるかは個人の見解によるだろうが、ちなみに日本の大学では、国内学生と留学生の学費は同額である場合が一般的である。

(2) 教育系大学院の概要

教育系大学院プログラムの過去5年間の在籍者数を見てみると、2016年秋学期が3,781名、2017年秋学期が3,800名、2018年秋学期が3,875名、2019年秋学期が3,804名、2020年秋学期が3,994名と人数的には増加傾向にあるが、教育学部全学生に占める大学院学生の割合はそれぞれ24%、22%、23%、25%、24%とほぼ横ばいであり、大学院学生がコンスタントに約4分の1を占めている。上述した通り、2020年のアルバータ大学全学生に占める大学院生の割合は19.82%であり、教育系大学院学生の割合の方が5%ほど高くなっている。また、教育系大学院学生に留学生が占める割合は7%前後で推移しているが、大学院全体に占める留学生の割合が36.9%であることを考えると、教育系大学院ではかなり低いということになる。

表7 教育系大学院学生数等

事項	2016	2017	2018	2019	2020
大学院学生を含む教育学部全学生	3,781 (24%)	3,800 (22%)	3,875 (23%)	3,804 (25%)	3,994 (24%)

¹³ 例えば、オンタリオ州における近年の高等教育政策に関しては、(Clark et al., 2009) を参照されたい。

¹⁴ <https://www.ualberta.ca/graduate-studies/current-students/tuition-and-fees/how-fees-are-calculated/index.html> (2022年8月26日採取)。

¹⁵ <https://www.ualberta.ca/graduate-studies/current-students/tuition-and-fees/noninstructional-fees.html> (2022年8月26日採取)。

数（うち学院生が占める割合）					
大学院学生数*	892	849	897	932	936
修士（コースベース）	576	529	584	609	626
修士（学位論文ベース）	70	65	62	68	55
Ph.D.	246	255	251	255	255
留学生の割合	7.1%	6.6%	7.5%	7.9%	6.9%
教員数	107	111	108	103	102
教員対学生比率					
修士（コースベース）	1:5.4	1:4.8	1:5.4	1:5.9	1:6.1
修士（学位論文ベース）	1.5:1	1.7:1	1.7:1	1.5:1	1.9:1
Ph.D.	1:2.3	1:2.3	1:2.3	1:2.5	1:2.5

*正規の学位課程以外の学生（証明書プログラムや「その他」に含まれる学生）は含まれていないため、大学院学生を含む教育学部全学生数と大学院学生が占める割合から実数を算出しても、ここでの値とは合致しない。

出典：(FGSR, 2021, p. 17・18・19・46・47) 掲載の表を基に、筆者作成。

3. 教育系大学院各専攻の概要

教育系大学院は、「教育政策学専攻 (Educational Policy Studies)」、 「教育心理学専攻 (Educational Psychology)」、 「初等教育専攻 (Elementary Education)」、 「中等教育専攻 (Secondary Education)」、 「図書館情報学専攻 (School of Library and Information Studies)」に分類される。以下では、上記5つの専攻を個別に概観することとする。

(1) 教育政策学専攻

教育政策学専攻は「成人・コミュニティ・高等教育 (Adult, Community, and Higher Education: ACHE)」領域、「教育リーダーシップ学 (Studies in Educational Leadership: SEL)」領域、「先住民教育 (Indigenous People's Education: IPE)」領域、「社会正義・国際学 (Social Justice and International Studies in Education: SJI)」領域の4領域に分けられる。学位プログラムとしては、ACHE 領域と SEL 領域には M.Ed. (コースベースと学位論文ベース)、Ph.D., Ed.D.の3種類、IPE 領域には M.Ed.及び Ph.D.がある¹⁶。

ACHE 領域では、地域的・世界的文脈の双方において、フォーマル、ノンフォーマル、インフォーマルなど多様な環境の中で教育をしたり、経営管理したり、地域のリーダーとなったりする能力のある個人のためのプログラムが提供されており、学生は中等後教育機関や地域組織、NGO、文化芸術機関や、職場学習を含む広範囲にわたる成人教育・コミュニティ教育・高等教育実践と研究について学んでいる。よって、ACHE 領域に属する学生の到達目標としては、次の3点が挙げられている。即ち、「調査によって裏付けられた学識や応用知識の諸領域としての成人教育・コミュニティ教育・高等教育に関する理解を明示すること」、「高等教育やコミュニティ教育の環境における成人教育プログラミングにおいて効果的な概念化やリーダーシップのためのスキルを開発すること」、「コースベース M.Ed.の場合、ACHE 領域における研究を批判的に評価し、理論と実践に対するその関係を理解する能力を示すことであり、学位論文ベースの M.Ed.の場合、それに加えて、独自の調査プロジェクトを概念化し実施すること」とされている¹⁷。

¹⁶ <https://www.ualberta.ca/educational-policy-studies/prospective-students.html> (2022年7月26日採取)。

¹⁷ <https://www.ualberta.ca/educational-policy-studies/graduate-programs/ache-specialization.html> (2022年7月26日

SEL 領域は、2022年6月までは「教育行政学及びリーダーシップ (Educational Administration and Leadership: EDAL)」領域とされていたものである。この領域では、カナダあるいは海外の公的セクターや非政府組織、K-12教育や中等後教育機関において広範囲にわたる管理的・指導的でリーダーシップの役割を果たす準備のための高度な教育を提供するものとされている¹⁸。

IPE 領域は、地域的にも地球規模でも、先住民の価値観やインテグリティ (integrity)、知識体系に根差した研究を行う先住民の研究者を支援することを目的としており、これまでの大学教育のパラメーターやスタンダードと先住民学生や研究者、エルダー (Elders)¹⁹の集合的努力を組み合わせたものである。先住民の文化的規範を維持するために、全ての入学希望者は、入学前に先住民の大学教員や学生代表、エルダーと面談し当該プログラムをよく理解するための機会が提供される²⁰。

SJI 領域は、教育という営みが発生する社会的文化的文脈及び教育の理論的哲学的イデオロギー的裏付けにフォーカスを当てる領域であり、地域的・国家的・国際的といった様々な環境の中で、教育に対するアプローチにおける哲学・歴史・社会学・その他の社会科学に重点を置いている。その意味で、当該領域は以前は「教育的基礎 (Educational Foundations)」とされていた。ゆえに、倫理学 (ethics)、認識論 (epistemology)、歴史学 (historiography)、政治経済学、社会学、社会政治理論、比較教育学、カルチュラル・スタディーズといった学問領域が、教育が制度的に検討される概念的レンズを提供する。従って、SJI 領域の授業は、教育と経済的・政治的・文化的制度の関係性を探究し、社会的経済的不平等 (inequality, 格差) や、ジェンダーと人種の関係、多文化主義、性的嗜好、ジェンダーアイデンティティ、シティズンシップ、生態学、開発、グローバリゼーション、植民地性 (coloniality) 等について考えるための政治的、道徳・倫理的、認識論的な幅広い枠組みを学生に提示するとされる²¹。

(2) 教育心理学専攻

教育心理学専攻は、「教育心理学 (Psychological Studies in Education: PSE)」領域、「カウンセリング心理学 (Counselling Psychology)」領域、「測定・評価・データサイエンス (Measurement, Evaluation, and Data Science: MEDS)」領域、「特別支援教育 (Special Education:)」領域、「臨床児童心理学 (School and Clinical Child Psychology: SCCP)」領域、「スクール・カウンセリング (School Counselling)」領域、「第二言語としての英語 (Teaching English as a Second Language: TESL)」領域、「教育心理学における教育工学 (Technology in Education Specialization in Educational Psychology, 教育工学)」領域から構成される²²。学位としては、スクール・カウンセリング領域と教育工学領域は M.Ed.のみ、それ以外の領域は M.Ed.と Ph.D.のプログラムがある²³。

PSE 領域は、大学院教育における科学者兼実践家モデル (scientist-practitioner model) を推奨している。

採取)。

¹⁸ <https://www.ualberta.ca/educational-policy-studies/graduate-programs/sel-specialization.html> (2022年7月26日採取)。

¹⁹ Elders は「長老」と訳される場合もあるが、我々が通常イメージする「長老」とは、あるグループの絶対的指導者のような位置づけがなされることが多いだろう。しかしカナダ先住民の Elders は、年長者として尊敬を集める存在ではあるが、「権力者」のような位置づけではない。本稿では、そのような誤解を避けるため、「長老」ではなく「エルダー」と表記している。

²⁰ <https://www.ualberta.ca/educational-policy-studies/graduate-programs/ipe-specialization.html> (2022年7月26日採取)。

²¹ <https://www.ualberta.ca/educational-policy-studies/graduate-programs/sji-specialization.html> (2022年7月26日採取)。

²² <https://www.ualberta.ca/educational-psychology/graduate-programs/index.html> (2022年7月26日採取)。

²³ <https://www.ualberta.ca/education/programs/graduate-programs/index.html> (2022年7月28日採取)。

即ち、当該プログラムは学術的あるいはコミュニティに根差した研究キャリアを迫及するために教育への心理学の応用に関心のある学生のためにデザインされている。学生は教育における心理学理論について深い理解を獲得し、そうした理論を教育上及びコミュニティの状況に応用する経験を得ることになる。その際、教育心理学における次の 5 つの領域において堅固な核となる基礎が学生に提供される。即ち、「発達心理学」、「認知、指導と学習 (cognition, instruction, and learning)」、「教育調査の方法」、「教育調査におけるデータ分析」、「コミュニティに根差した調査の応用 (community-based research applications)」である。また、PSE 領域の達成目標は、次の 4 つになっている。

- 教育心理学における調査、原理、理論における強固な基礎を開発すること。
- コミュニティや教育上の環境で発生する問題に心理学の原理、方法、知識を応用する能力を養うこと。
- 教育心理学における調査と実践を評価する知識とスキルを開発すること。
- 教育心理学における高質な調査を実施する能力を開発すること。²⁴

PSE 領域の修了生の想定される職種は、教育機関や政府、コミュニティ機関、民間調査開発機関、産業界などにおけるリサーチャー、アナリスト、コンサルタント等である²⁵。

カウンセリング心理学領域は、堅固な学術的研究的志向を持ち、変化し多様化する役割に適合することのできる能力の高い心理学者を養成するようデザインされている。ゆえに学生は、多様なカウンセリング・アプローチに触れることになる。プログラムの基礎となっているのは、カウンセリング・トレーニングのための科学的実践家モデルである。即ち、科学的実践家は研究と実践のバランスをとり、また両者を統合し、自らのカウンセリングの有効性を何度もモニターする。プログラムのコア・コースは、私的な実践や学術的環境において、カウンセリング心理学者あるいはコンサルタントとして機能し得るスキルや知識を学生に提供するようデザインされている。学生は、より専門的な層や環境のニーズに合致するように専門的な経験やトレーニングを選択することになる。以上に鑑みて、次の 4 点が当該プログラムの目的として設定される。即ち、①「カウンセリング実践の開発、応用、評価」、②「倫理的行動の促進」、③「人的多様性への理解と敬意」、④「心理学の広範な分野をカバーすること」、である。そしてこれら目的を達成するために、学生は大学とコミュニティ機関において専門的心理学者によって指導された一連のコースワークや実践を積むことになる (Department of Educational Psychology, 2021)。

MEDS 領域は、次の 4 つの領域における堅固な核となる基礎を学生に提供するものとされている。即ち、「心理測定 (Psychometrics)」（高質の手段のデザイン・分析・解釈）、「調査方法論 (Research Methodology)」（統計手法とリサーチ・デザイン）、「評価 (Evaluation)」（教育・組織プログラムの評価）、「データ・サイエンス (Data Science)」（データマイニングの手法、機械学習アルゴリズム、学習分析論）である。当該領域は教育系プログラムだけでなく、コンピュータ・サイエンス (Computing Science) や電気・コンピュータ工学、心理学、言語学など、その他のプログラムからも、必修あるいは選択科目を設定している。この領域で学ぶ学生には、次の 5 つの能力開発がなされるとされている。即ち、①「心理測定、調査方法論、評価、データ・サイエンスにおける堅固な知識基盤とそれら諸領域の豊富な職業機会にそうしたスキルを応用する能力」、②「最先端の教育的用途における調査及び実践に関する批判的分析的思

²⁴ 直接引用であるが、ウェブサイト上の記載であるため、頁の特定はできない。

²⁵ <https://www.ualberta.ca/educational-psychology/graduate-programs/psychological-studies-in-education/index.html> (2022 年 7 月 26 日採取)。

考スキル」, ③「測定, 評価, データ・サイエンスにおける最先端テクノロジーを開発・使用・応用する実践的スキル」, ④「大規模なあるいは教室での評価実践の構成, 解釈, 妥当性を周知するための確かで高質の調査を実施する能力」, ⑤「インパクトのあるピア・レビューのある刊行物, 技術報告書 (technical reports), プレゼンテーションを通して高質な調査結果を世に問うのに必要とされるコミュニケーション・スキルや知識伝達スキル」, である²⁶。

特別支援教育領域は, 特別なニーズのある子どもの学術的・心理的及び社会化に関わるニーズにより合致できるような研究的専門的スキルを提供するプログラムとなっている²⁷。

SCCP 領域の専門的心理学訓練プログラムは, 科学者実践家モデル (scientist-practitioner model) に基づいている。SCCP プログラムのミッションは, 多様な環境にある子どもや若年層, 家族との研究的あるいは専門的心理学的实践を含むキャリア (例えば学校, メンタルヘルス施設, コミュニティ組織, 学術界) に就くために理論的基礎や研究上及び専門上の訓練を提供することである。そうした専門上の目標を満たすために, 学生は直接的訓練や実践的経験, クリニックや教室, 研究所といった環境における協働機会から多くを学ぶことになる。こうした経験を通して, 学生は評価や仲裁, 専門的相談, 倫理事項, 予防に関するトレーニングを受ける。そのために必要とされるコースワークとしては, 統計学や調査方法論, 応用のための機会を重視した評価等の訓練を含むものとなっている。また, コミュニティに根差したもののから協働的環境における実験的調査に至るまでの広範な調査機会も提供される。こうした統合的なプログラム配信モデルから, 学生は現代的な科学者実践家になるに必要なスキルを身につけることになる²⁸。

スクール・カウンセリング領域は M.Ed.学位のみのプログラムであり, エドモントン及びその近郊の学校にフルタイムで勤務し, 勤務校の校長によってスクール・カウンセリングの役割を担う専門性開発を拡大させる強力な候補者であると認識されている教員向けにデザインされている。そのため, 教員の勤務スケジュールと同時併行的に就学できるように, 26 か月から 6 年の間に 36 単位を修得することが求められるパートタイムの学位プログラムとなっている。当該プログラムを修了することにより教員は, ①「児童生徒の個人的かつ社会的発達を促進し」, ②「児童生徒の学力を向上させ」, ③「児童生徒のキャリア決定を促し」, ④「学校に基礎を置いた危機管理に従事し」, ⑤「家庭・学校・コミュニティ間の連携を調整し」, ⑥「プログラム開発や照会目的のために危機にある児童生徒を認識する」ための個人やグループ, 教室, 学校に基礎を置いた調停を実施できるようになる, とされている²⁹。

TESL 領域は, 養成段階及び現職教員双方の学生に対し, 現在の研究上及び理論上のモデルを提示し, 教室で観察される相互行為に関する問いをどう形成するかに関する理解を促し, そうした問いが提示される可能な方法を探求することにより, 専門性開発を促進するようデザインされている。学生は最終年に当該領域で学んだスキルとコンセプトを統合する「最終プロジェクト (capstone project)」を完成させることになる。当該プロジェクトは, ESL (English as a Second Language) や EFL (English as a Foreign Language) の教員や, より広い ESL や EFL のコミュニティに関連する問題を提示し, アンケート調査

²⁶ <https://www.ualberta.ca/educational-psychology/graduate-programs/measurement-evaluation-and-data-sciences/index.html> (2022年7月27日採取)。

²⁷ <https://www.ualberta.ca/educational-psychology/graduate-programs/special-education/index.html> (2022年7月27日採取)。

²⁸ <https://www.ualberta.ca/educational-psychology/graduate-programs/school-and-clinical-child-psychology/index.html> (2022年7月27日採取)。

²⁹ <https://www.ualberta.ca/educational-psychology/graduate-programs/school-counselling/index.html> (2022年7月29日採取)。

やインタビュー調査を実施したり、教材を開発したり、実験を行ったりすることになる³⁰。

教育工学領域は、教育心理学と教育工学における理論、基礎・応用調査、調査方法に関心のある学生、特に学術的あるいは調査関連のキャリアを目指す学生向けにデザインされており、心理学理論とその教育工学への応用に関する深い理解を得、教育工学における課題にそうした理論や調査を応用する方法論的スキルを獲得することが求められる。そこでは、教育心理学及び教育工学における次の諸エリアにおける堅固な核となる基礎が提供される。即ち、応用認知、指導と学習、教育調査の方法、教育調査におけるデータ分析、マルチメディア・リテラシー、教育心理学における理論と実践、である。学生の修了後のキャリアとしては、教育機関や政府機関、民間調査開発機関、産業界などにおける調査者、アナリスト、コンサルタントなどが想定される³¹。

(3) 初等教育専攻

初等教育専攻に関しては、教育政策学専攻や教育心理学専攻のように、専攻全体にわたるプログラムの理念やカリキュラム・ポリシーに関する記述は、少なくともウェブサイト上は見られない³²。M.Ed.プログラムには対面方式(M.Ed. in Elementary Education (On-Campus))で実施される「初等教育 M.Ed. (M.Ed. (Elementary Education))」と、原則としてオンライン方式で配信される「カリキュラム・教授法初等教育 M.Ed. (M.Ed. with a specialization in Curriculum and Pedagogy (Elementary Education))」の2種類がある³³。また、カリキュラム・教授法初等教育 M.Ed.の一部として、保健体育分野の M.Ed.プログラム(M.Ed. in Curriculum and Pedagogy (Health and Physical Education Cohort))が2年間のパートタイム学生を対象として、例外的に対面式・コーホート形式で提供されている。博士課程には Ph.D.と Ed.D.の双方がある³⁴。

(4) 中等教育専攻

中等教育専攻では M.Ed., Ph.D., Ed.D.の学位プログラムを提供しており、カリキュラム理論や教育方法に関連するプログラム内容となっている。具体的には、カリキュラム論 (Curriculum Studies), 先住民カリキュラム (Aboriginal and Indigenous Curriculum Perspectives), キャリア及びテクノロジー教育 (Career and Technology Studies), デジタル・テクノロジー教育 (Digital Technologies in Education), 英語教育 (English Language Arts Education), 芸術及びメディア教育 (Fine Arts Education and Media Studies), 数学教育 (Mathematics Education), 保健体育 (Physical and Health Education), 科学教育 (Science Education), 第二言語及び ESL (Second Languages and ESL), 社会科教育 (Social Studies Education), 教師教育 (Teacher Education), 等である³⁵。

(5) 図書館情報学専攻

アルバータ大学の図書館情報学専攻は、平原州 (アルバータ州, サスカチュワン州, マニトバ州) で唯一図書館情報学修士 (Master of Library and Information Studies: MLIS) の学位プログラムを提供しており、アメリカ図書館協会 (American Library Association: ALA) によって認可されている。また、MLIS プ

³⁰ <https://www.ualberta.ca/educational-psychology/graduate-programs/teaching-english-as-a-second-language/index.html> (2022年7月29日採取)。

³¹ <https://www.ualberta.ca/educational-psychology/graduate-programs/technology-in-education-specialization/index.html> (2022年7月29日採取)。

³² <https://www.ualberta.ca/elementary-education/index.html> (2022年7月29日採取)。

³³ https://calendar.ualberta.ca/preview_program.php?catoid=36&poid=43181 (2022年9月13日採取)。

³⁴ <https://www.ualberta.ca/elementary-education/graduate-programs/index.html> (2022年8月24日採取)。

³⁵ <https://www.ualberta.ca/secondary-education/graduate-programs/index.html> (2022年8月24日採取)。

プログラムを完全オンラインで提供しているのは、カナダでは当該専攻のみである。当該専攻が提供している MLIS 以外の学位プログラムとしては、教養学部との共同学位プログラム (combined degree program) として「Master of Arts in Digital Humanities + Master of Library and Information Studies (MA/MLIS)」と、アルバータ・スクールオブビジネスとの共同学位プログラムとして「Master of Business Administration + Master of Library and Information Studies (MBA/MILS)」がある。双方ともに修了時には2つの学位を授与されることになる。就学方式は、双方ともに対面方式のみである³⁶。

おわりに

以上、カナダ・アルバータ州の州都であるエドモントンにメイン・キャンパスを構える総合大学であるアルバータ大学大学院全体及び教育系大学院の概要を統計データの視点から明らかにしたうえで、教育系大学院の5つの専攻の概要を見てきた。この後は本プロジェクトの対象である M.Ed.と Ed.D.双方を有する専攻について、カリキュラムや修了要件等について見ていくことになるが、紙幅の関係上、本稿中でこれを検討することはできない。別稿に譲りたいと思う。

【参考文献】

- ・ Clark, I. D. et al. (2009). *Academic transformation: The forces reshaping higher education in Ontario*. Kingston, Ontario: McGill-Queen's University Press.
- ・ Department of Educational Psychology (2021). *Counselling psychology student handbook 2021-2022*. Department of Educational Psychology Faculty of Education. Retrieved July 27, 2022, from the World Wide Web: https://drive.google.com/file/d/1fqlu6aYr_3PYRF7Nws8BhnYro9DtsUI/view.
- ・ FGSR. (2021). *Graduate Studies Year Book: Enrolment data and updates from FGSR*. FGSR. Retrieved July 24, 2022, from the World Wide Web: <https://www.ualberta.ca/graduate-studies/media-library/about/facts-and-figures/graduate-enrolment-report/20211026-fgsr-grad-enrolment-report-20-21.pdf>.
- ・ 平田淳 (2019a) 「カナダ・ブロック大学大学院における M.Ed.プログラムの制度設計と諸特徴」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第3巻, 46-68頁。
- ・ 平田淳 (2019b) 「カナダ・ブロック大学大学院における M.Ed.プログラムの実態の諸側面—担当教員の認識に関する質的分析—」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第3巻, 69-91頁。
- ・ 平田淳 (2020a) 「トロント大学オンタリオ教育研究所 (Ontario Institute for Studies in Education of the University of Toronto: OISE/UT) における研究科と学位プログラムの制度設計」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第4巻, 110-127頁。
- ・ 平田淳 (2020b) 「トロント大学オンタリオ教育研究所における教育実践家向け学位プログラム (M.Ed.・Ed.D.) 及び研究者向け学位プログラム (M.A.・Ph.D.) の類似点と相違点—『リーダーシップ・高等・成人教育』研究科『教育リーダーシップと政策』プログラムを題材として—」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第4巻, 128-151頁。
- ・ 平田淳 (2021a) 「カナダの大学院における M.Ed.及び Ed.D.プログラムの設置状況」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第5巻, 25-42頁。
- ・ 平田淳 (2021b) 「カナダ・ウェスタン大学 (Western University) 大学院における M.P.Ed. (Master of

³⁶ <https://www.ualberta.ca/school-of-library-and-information-studies/study/prospective-students/index.html> (2022年8月24日採取)。

Professional Education) 及び Ed.D. (Doctor of Education) プログラムの比較分析」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第 5 巻, 43–64 頁。

- ・ 平田淳 (2021c) 「カナダ・ウェスタン大学 (Western University) 教育系大学院における教育実践家向け学位プログラムと研究者向け学位プログラムの比較分析—修士課程及び博士課程双方を対象として—」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第 5 巻, 65–80 頁。
- ・ 平田淳 (2022) 「カナダ・ウェスタン大学 Ed.D.プログラムにおける最終プロジェクト『組織改善計画 (Organizational Improvement Plan: OIP)』の意義と内容」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第 6 巻, 2–23 頁。
- ・ 溝上智恵子 (2013) 「カナダの高等教育制度」カナダ教育学会編『カナダ教育研究』No. 11, 55–67 頁。

【附記】

- ・ 本稿は、独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) (基盤研究 (C) (一般)) 「JSPS 科研費 JP18K02283」の研究成果の一部である。

(2023 年 1 月 31 日 受理)